




平成23年度「施設の有効活用にかかる公開検討会」施設ごとの諮問内容について

No.	施設名称	現状・課題	諮問内容
A1	水木邸	文化資産として保全する必要性や、来訪者数に比例して経費が高くなることから、開館日を限定せざるを得なくなっている。	資産の保全、文化振興、運営コストの3者のバランスが取れた運営手法についてご意見を伺う。
A2	中山文化村(清華園、旧片桐邸)	・利用単位当たりコストが2,000円近くで推移しており、その縮減が求められる。 ・施設の内容や規模からすると、施設使用そのものを有料化することは現実的ではない。 ・「旧片桐邸」は東日本大震災により損傷を受けて休館中であり再開館には改修が必要である。	コストパフォーマンスの向上と、中山地区の文化・観光施設としての効果的な活用策について、運営手法等の観点からご意見を伺う。
A3	郭沫若記念館	・費用を増加させることなく顕彰機能を強化することが求められる。 ・芝桜の時期である4月に年間利用者数の半数が訪れ、他の時期の利用が少ない。	回遊性の高い街に所在するという特性を活かし、費用を抑制しながら年間を通じた入場者数の増加を図る具体的な方策についてご意見を伺う。
A4	考古博物館、歴史博物館	・老朽化が目立ち始めており、近い将来、大規模改修や建替えが必要となる時期に差し掛かってくる。 ・外環道の建設、それに合わせた公園の整備も予定されているなど、周辺地域の環境も大きく変化しつつある。 ・博物館施設の規模に比べると利用者数が少ないといえる。	市民の共通歴史財産の保存とその有効活用のための方策について、幅広い視野と多角的な観点からのご意見を伺う。
A5	自然博物館	・動植物園内に設置されているものの、自然博物館と動植物園とでは入場料や所管する組織等が異なっており、より効率よく管理運営する余地がある。 ・動植物園の敷地内という立地条件をより活かした展示活動の充実が求められる。	より効果的に運営していくための、目指すべき方向性とその具体的手法についてご意見を伺う。
B1	大柏川第一調節池緑地ビジターセンター	・開設から4年が経過しているが、利用者数は伸び悩みの傾向にある。 ・集会室・会議室の利用者は地域住民や市民団体・環境団体が中心であり、利用が一定の範囲に限られている。 ・広大な北部広場や駐車場のエリアも、県との管理協定等による制約もあり、十分に活用されていない。	ビジターセンターの建物だけでなく、周辺の(北部)広場や駐車場のエリアについても、その広さや周辺環境、幹線道路に面しているといった立地条件など、同緑地が持つ特性を有効に活用し活性化を図るための目指すべき方向性とその具体的手法について広くご意見を伺う。
B2	地域ふれあい館(13館)	・利用人数の伸びがみられない。 ・利用団体が固定化してきている。 ・施設の老朽化が進んでいる。	さらなる稼働率の向上策と地域コミュニティの活性化を図るために地域ふれあい館として果たすべき役割についてご意見を伺う。
B3	アイ・リンクセンター	立地条件を生かした取り組みを行うなど、稼働率、利用者数の拡大を図ってきたが、駅前施設として、さらなる施設の有効活用、利用率の向上に向け、対策が必要。	駅前という立地条件を生かした更なる有効活用策について具体的にご提案を伺う。
B4	八幡市民談話室	駅に大変近い交通至便な場所に位置しているが、市の案内施設として、十分機能しているとはいえない状況である。	本施設を駅前施設に相応しいインパクトある機能を有した施設とするための具体的な手法についてご意見を伺う。
B5	南行徳市民談話室	駅前施設として、さらなる施設の有効活用、利用率の向上に向け、対策が必要。	駅に大変近い場所に位置していることから、この立地条件をより生かし、設置目的に合った更なる有効活用策、利用率の向上策についてご意見を伺う。

平成23年度 施設の有効活用にかかる公開検討会
当日(平成23年11月19日)の進行について

A. 全体の流れ

時間	内容	場所
12時30分	①集合 ②本番前ガイダンス ・当日の流れ確認 ・次回会議の日程確認 ・その他諸連絡事項 (ガイダンス終了後、13時までに 第4委員会室へ移動) 	第1委員会室
13時00分	③開会式 ・市長(代理:企画部長)挨拶 ・会長挨拶 ・議論・検討の進め方説明 ・タイムスケジュール説明 ・注意事項説明 (開会式終了後、Bグループは 第5委員会室へ移動) 	第4委員会室
13時10分	④議論・検討開始 	Aグループ:第4委員会室 Bグループ:第5委員会室
16時50分	⑤全日程終了・解散	

B. 議論・検討の進め方

- 原則として、《文化施設》《博物館》《公園施設》《貸館施設》の分類ごとのタイムスケジュールの中で、施設ごとに以下の手順に沿って議論・検討を進めていく。
- 司会・コーディネーターは会長(Aグループ)、副会長(Bグループ)が務める。
- 4**でとりまとめられた考え方を市政戦略会議としての最終的な結論とせず、次回開催の会議においてその考え方をさらに精査し、その結果を最終的な結論として、市長に答申する。

1 課題・諮問事項の説明

- 事務局より、その施設が抱えている課題を説明し、議論・検討をしていただきたい事項を提示する。



2 対象施設の概要説明

- 所管課より、施設の設置目的、総合計画上の位置付け、対象者、利用状況、歳出と歳入(財源)の状況等を説明する。



3 質疑・議論

- 1** **2**の説明や冊子に記載の資料、勉強会や現地視察での内容を踏まえながら、質疑・議論を行う。
- 質疑・議論がある程度煮詰まってきた時点で、委員より各々の最終的な考え方を簡潔に表明する。



4 まとめ

- 各委員より表明された考え方等をもとに、これまでの議論をとりまとめる。

平成23年度 市川市市政戦略会議 施設の有効活用にかかる公開検討会 審議状況

分類	No.	施設名称	主な質疑	主な意見	当日のまとめ
文化施設	A1	水木邸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎週公開した場合の問題は何か。 ⇒基金充当先は公開日の管理委託経費。公開日が増えると基金の消耗が早くなる。また、施設内の資料整理が完全に終わっていないため、日数を限定している。 ・ 女性脚本家を取り上げた企画展について、どのように考えているか。 ⇒現在は文学プラザで学芸員が研究をしており、資料の整理が進んでいる。本市としても林芙美子氏の企画展を考えたい。これまでも文学プラザでは関連する脚本家の紹介をさせていただいている。 ・ コストをかなり抑えているとは思いますが、大規模補修も考えられる。どういう節減策をとっているか。 ⇒草むしりや梨の木の剪定等に、サポーターの協力を得ている。今後も引き続きお手伝いをお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水木洋子の常設部分と、もっと範囲を広げた近代の映像文化に関わる特別企画展を考えてはどうか。 ・ 向田邦子氏など、企画展の幅も増やすべきだ。 ・ 守りの姿勢から攻めの姿勢に転換を。水木洋子のファンの集いを年一回、定例化して実施してはどうか。 ・ 現行方式で当面は続けるも、いずれは映像文化センターに集約してコストを抑え、現在の建物は別の方法で処理すべきだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント業者とタイアップしてイベントや企画をもっと打って活性化するなど、利用者をもっと増やすべきである。 ・ 水木氏に関連していないものを展示し、その展示目当てに来た人々にも水木氏を知っていただけるよう、展示の幅を広げるべきである。 ・ 予算を極力掛けないようにすべきである。樹木剪定はとても費用がかかっているの、ボランティアである程度できないか検討すべきである。
	A2	中山文化村《清華園》		<ul style="list-style-type: none"> ・ 立地が良く、商店会の店の和菓子やお茶を有償で提供するなど、活用方法によっては非常に良くなると思う。 ・ 休憩所として、たとえばウォーキングや参詣の帰りにお茶を飲みながら休憩できる、どなたでも入りやすい雰囲気であれば、市民の方にもなじみやすいのではないか。 ・ 入り口の看板など、参詣者が寄りやすい工夫をしてはどうか。 ・ 中山窓口連絡所に職員がいる。二重行政とも言える。清華園の管理運営を市民課に任せれば経費は半分程度に抑えられるのではないか。 ・ 商店会、法華経寺や地元の町おこし団体等に無償で寄贈してうまく活用してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常に立地が良いが、利用は芳しくない。行政が地元は無償で貸与して、町おこしに使っていただく方法を検討すべきである。 ・ 本市の条例や法律による規制があるとするならば、そうした法令を変えるよう働きかけるべきである。
	A2	中山文化村《片桐邸》	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧片桐邸をいつまでにどうすべきか、市で検討したか。 ⇒サンデーマチネーコンサートを行い、若手育成を図っているが、改修すれば、音楽をいつでも行っている「音楽の館」的存在となって、中山地域の魅力を高める資産になりうるものと考えている。 ・ 建物の文化的価値を調査し、結果はいつ出るか。 ⇒昭和初期の建物であり、伝統的建築物ではないが主要な建築物とはなりうるとの調査結果が出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の文化的価値はないと考える。 ・ 水木氏は文化人だったが、片桐氏は一般の方であり、建物も代表的建築というわけでもない。市内に類似する施設はたくさんあるとも思われ、積極的に残すインセンティブがない。 ・ 財政を鑑みて市から手放すべきだ。 ・ 契約時と状況が大きく変化している。寄贈した側と話し合っ、今後どうするかを考えるべきだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5千万円を掛けて改修することには賛成できない。壊すべきである。 ・ 跡地にステンドグラスをモニュメントとして設置したり、公園化・庭園化したりする方法が考えるべきである。

分類	No.	施設名称	主な質疑	主な意見	当日のまとめ
文化施設	A3	郭沫若記念館	<ul style="list-style-type: none"> 郭氏は日中友好に貢献した6人の1人とされている。市川市役所として、どれくらい本気で郭沫若記念館を日本中・世界中の人に来てもらおうと売り込む気であるのか。 ⇒市として郭氏を国家戦略的観点から捉えるほどまでは考えが及んでいなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 中国といかにうまく付き合っていくかが国家戦略上も重要。中国に親日家を増やす必要がある。その戦略上に記念館を位置付けるべきだ。 市川真間の周辺施設とのリンクが必要。周辺に須和田公園や芳澤ガーデンギャラリーがある。「徒歩〇分」というようなわかりやすいサインを設置してはどうか。 郭氏の遺品等だけでは展示がマンネリ化する。日中友好に視野を広げ、常設展以外にも展示を広げれば日中友好につながるのではないか。 地理的に不便。街かど回遊マップや市川ウォーキングマップもある。健康のためにも、マップを積極的に配布するなどしてPRしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> もっと日中友好に活用していただきたい。中国大使館や日中友好団体に積極的に働きかけてイベントを打って、もっとアピールすべきである。 今現在は施設が漠然としてあって、樂山市とは交流がある程度。自治体同士だけでなく日中友好に少しでも寄与できるように活用すべきである。

分類	No.	施設名称	主な質疑	主な意見	当日のまとめ
博物館	A4	考古博物館、 歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化し傷みが多いが、耐震診断はされたのか。また耐震対策は施されているのか。 ⇒耐震診断を行った結果、双方とも一般の使用に差し支えない状態を保っているとの評価だった。そのため耐震工事は考えていない。 ・庁内ではいつ頃までに建て替えるのかを検討しているか。 ⇒建て替えの検討には至っていない。 ・時代を分けて博物館を設置する必要はあるのか。 ⇒両館それぞれの目的で訪れる方々がいるなど、利用形態は様々である。2館の展示内容が違っており、一概に重複とは考えていない。 ・国内に5千数百あると言われる博物館の大半が、博物館相当施設として法律の枠外で運営されている。入場料を徴収していないことのほか、施設の設備や人員体制等が法律で縛られている状況の中、あえて博物館として維持し、法の枠組みに縛られる必要はあるのだろうか、博物館としてのメリットは何か。 ⇒博物館法は原則無料としているが、運営に必要な場合は徴収も可能となっている。公立博物館としての使命を十分に果たすためにも、公立博物館は教育委員会の所管と定める同法による登録博物館としての運営が望ましいと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型バスが入れないのと、アクセスが良くないのが入場者数が増えない原因ではないか。 ・博物館のような公共の施設の建替えというのは、時間がかかる問題だ。今からでもパブコメなど市民を巻き込んだ検討をすべきだ。 ・駅近の学校の空き校舎・空き教室を使った郷土資料室にすることも検討すべきだ。 ・公民館の講座や学校等に、学芸員はもっと積極的に出向くべきだ。 ・資料は映像やパネル等を活用して効果的な展示をすべきだ。 ・フェスティバルを増やして昔遊びをできるようにしたらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぜひ市内の全小学校から児童が見学にくるようにすべきである。2館の有効利用にもなるが、子どもたちの教育は何よりも大切。ぜひてこ入れをすべきである。 ・学芸員の方々がさらに外に出向いたり、定時の館内ツアーを行ったりするなど、さらなる工夫や努力をすべきである。 ・将来展望として、2館を統合することを検討すべきである。 ・今の場所はロケーションが悪い。建替えの時期が来ても、今の場所以外のアクセスの良い場所に移転すべきである。
	A5	自然博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所としては、利用者を増やすのと管理運営費を削減するのとではどちらに力点を置いていくのか。 ⇒たくさんの方に知っていただくことが自然博物館の使命でもあるので、利用者を増やしたい。ただ、昨今の厳しい財政状況を踏まえ、最小の費用で効果を出したい。 ・動植物園と一体となったイベントはあるのか。 ⇒家族の日(11月20日)に合わせ、動植物園と少年自然の家と合同で、クイズのウォークラリー開催等のイベントを実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然資料館等にして水と緑の部に統合して管理を一元化し、運営効率化を図るべき。 ・お金を払えば限なく楽しもうとする人が増えるはず。入園料を現状よりアップしても来客者は来るはず。 ・博物館法の縛りもあるだろうが、自然博物館のみ利用の場合に入場料をとらないねじれ現象は改めるべきだ。博物館相当施設になっても良いのではないか。 ・講座やイベント、パンフレット等で企業とのタイアップも考えるべきだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育面で非常に大きな役割がある施設であるといえる。小学生を中心とした教育面で力を入れるべきである。 ・入場料のねじれについては改善すべきである。 ・さらなるコスト削減のため、動植物園と自然博物館は一体で管理運営をすべきである。

分類	No.	施設名称	主な質疑	主な意見	当日のまとめ
公園施設	B1	大柏川第一調節池 緑地 ビジターセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所管課としてはなぜ利用が一定の範囲に限られていると考えているか。 ⇒まず、市民団体や地元、県、市で検討し、調節池内の自然環境創造型施設として整備してきた経緯がある。PRの不足や地域性、交通手段の問題もあったと思うが、自然環境創造の概念を固守したため多様なイベントに利用されなかったということが、市民の認知度や興味の不足につながった部分があった。 ・ 自然環境学習の場や地域文化の継承・発展といった目的を達成するために、市としては具体的に何をしているのか。 ⇒行政としては、特にそういったものについてイベントや企画はやっていないが、利用者の中から生まれたイベントとして市民ボランティア団体が民話を伝える会などをやっている。 ・ いわゆる自然を愛でる人を多く呼びたいのか、それとも元々の趣旨から離れたいわゆる一般の市民ももっと多く来てもらっていいのか。 ⇒やはり自然環境の保全・復元が目的ということから、基本的には自然環境への理解・興味がある人を呼び込みたいと考えている。 その上で、一般の人が来ることで目的を理解してもらって利用が増えることは歓迎するし、そのように仕向けていきたい。 ・ 集会室の利用状況を見ると、平成20年度は利用したが21年度以降は利用しなかった団体が多い。そういう団体に今年は利用しませんかと呼びかけたり、アンケートを取ったりはしていないのか。 ⇒過去に利用があった団体への呼びかけ等は特にしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の認知度、魅力を高める努力をすべきである。 ・ 自然環境活用ゾーンを含めた総合的な利用という観点から方向性を探るのが望ましい。 ・ 環境学習ができる場として、学校等のニーズや利用者の声を把握して反映させ、もっとアピールしていくことが必要だ。 ・ 水辺での軽音楽、弾き語り、詩吟なども自然を愛で親しむ範囲として解釈を広げてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の目的を明確化する <ul style="list-style-type: none"> ・ 「自然を愛でる」ことをベースとしながら、自然の概念を更に吟味して利用範囲をより広め取る方向で検討すべきである。 ○施設の魅力を高め、利用者の満足度を向上する <ul style="list-style-type: none"> ・ 緑地の周囲を一周できる周回路の整備などにより利便性を向上すべきである。 ・ 学校や一般利用者・近隣住民にアンケートを取ってニーズ・課題の把握及び改善を図り、利用者増につなげるべきである。 ○施設の認知度を高める <ul style="list-style-type: none"> ・ 表示方法の改善、ホームページの拡充やわかりやすい名称への変更を検討すべきである。

分類	No.	施設名称	主な質疑	主な意見	当日のまとめ
貸館施設	B2	地域ふれあい館	<ul style="list-style-type: none"> 稼働率の高いところと低いところの要因の分析をしているか。 ⇒駅近でふれあい館付近の人口密度が高い場所については稼働率が高く、逆に駅から遠い、ふれあい館付近の人口が少ない場所での稼働率は低いと認識している。 また、設備面として、部屋の数が少ないところ、高齢者の利用が多く和室については稼働率が低いと認識している。 13館の担当者が集まって、成功事例を話すなどの横の連携を取っているか。 ⇒横の連携を取るための方策はとっていない。 利用者の満足度をどう捉えているか。 ⇒利用者の満足度を把握するための調査は実施していない。 実質的には、地域サークル等が公民館の代替施設として活用していることが多いと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設の存在をアピールする必要がある。 老朽化も進んできているので、統廃合を含めて改めて検討する時期に来ている。 収支バランスを良くすることも大切であるが、それだけで判断するのはよくない。本施設は高齢者雇用の場として非常に貴重なものであると思う。 地域の実情に沿った形で運営を検討すべきだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 各ふれあい館の実情に合わせてイベントや主催事業の実施を検討すべきである。 施設の老朽化を踏まえて、施設の再配置等の検討を行うべきである。 予約システムの導入など、利用しやすくする工夫を行うべきである。
	B3	アイ・リンクセンター (I-linkルーム/ホール)	<ul style="list-style-type: none"> このアイ・リンクセンターのみ企業の利用を認めるのはなぜか。 ⇒公の施設はすべて住民の福祉の増進を目的に設置している。このうち、文化会館、市民会館、行徳公会堂については、営利目的の利用を明確に認めている。それ以外の施設については、営利目的の貸出を明確に禁止する文言はないが、設置目的を踏まえた上で、個別に判断をしているところである。 現在の利用形態は、12時間の開館時間のうち、昼と夕方にそれぞれ1時間ずつの休憩時間を設定しているが、これを変更して3時間の中で利用団体が掃除し、もうひとコマ増やすことができないか。 ⇒利用者の意見を踏まえながら、利用者が希望するようであれば時間枠の変更を検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授乳室、オムツ換えのスペースなど、子連れにやさしいという側面をもっとアピールしてほしい。 コストの半分は人件費である。行政サービスセンターの窓口受付時間中は、サービスセンターの受付窓口で鍵の受領を行うなどの工夫をしてほしい。 利用可能コマ数を増やす工夫をしてほしい。 施設名称をわかりやすくする工夫をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> アイ・リンクセンターという名称を含め、市民にわかりやすいPRを行うべきである。 アイ・リンクの受付とサービスセンターの受付を共有化するなど、受付の効率化を図るべきである。 利用者にとって使いやすくなるようなコマ割等を検討すべきである。
	B4	八幡市民談話室	<ul style="list-style-type: none"> 所管として、利活用の方法として具体的に考えていることはあるか。 ⇒1階部分に観光案内所のような施設を入れ、観光案内機能及び公衆を対象とした市、自治会や商店街、学校の催しなどの行事の総合案内所を提供できる施設、市民の文化・観光情報の集約施設としたい。サイン・入り口部分の手直しも考えている。 6階に国際交流協会の事務室があるのに、下の階で国際交流目的のフロアがないのはなぜか。広く見ると、国際交流も文化・観光につながると思う。 ⇒国際交流協会といっても、6階部分を事務室として貸しているからである。1階に国際交流協会の会報を置いており、そういった意味では文化国際情報も発信している。 この建物自体、外から見ても何をしているのかわからず、中に入らないとわからない。玄関をオープンにして、地場産業に結びつくもの、例えば梨などを売ってはどうか。 ⇒公の施設での販売が、どのようにしたら可能なのか研究する。 市民にわかりやすくするという意味で、名称を変更することはありえるのか。 ⇒条例を改正すれば可能。しかし、議会に提出するには、実態と名称が一致しないからというだけでは変更できない。1階の部分を、少し工夫をして、談話室のイメージに近い形にすることは考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 談話室といった名称を、実態に沿った名前に変更すべきだ。 壁面を活用し、市内の文化イベントの周知をしてはどうか。 パンフレットの表記等海外の方への配慮も必要だ。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民談話室で何をしているかを周知するために、 ① 市民談話室の名称を変更する ② 外壁を利用して内部の案内、市の文化施策の告知をすることを検討すべきである。 6階の事務室の工夫を行い、集会室の設置を検討すべきである。 千産千消のレストランの設置を検討すべきである。

分類	No.	施設名称	主な質疑	主な意見	当日のまとめ
貸館施設	B5	南行徳市民談話室	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人の方でも気軽に使えるシステム、案内はあるのか。 ⇒今のところこれといったものはない。現在ご利用頂いている方は、日本語のわかる外国人や、地域サポートの方といらっしゃる外国人が多い。 ・多目的ホールは、市内では一番条件的に素晴らしいと思う。もっとPRすれば良いと思うが、なぜやっていないのか。 ⇒申し訳ないが、やっていない。 ・談話室の位置付けは、コミュニティ活動の拠点ということだが、外部から新規に入ってきた人達に対して、既存のサークルへの新規加入についてのように対処しているのか。 また、外国人が多いということで、案内の多言語化はされているのか。 ⇒既存の団体に新しく入りたいという方には、名簿を用意している。代表者の名前や連絡先、どのような活動を行っているかが、一覧になっているので、それをもってご案内をしている。 外国語の対応はできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に数回、あるいは定期的に、手軽に使えるように、使い方を案内する方法や登録方法の周知が必要だ。 ・インターネットを利用して多言語への取り組みをしてはどうか。 ・保健センターが併設されているので、親子・子育てサークルなどへの働きかけをしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設のよさをもっと強調すべきである。 ・インターネットを活用した施設のPRを行うべきである。 ・外国人の交流の場を仕掛けるべきである。（外国語への対応を含めて）
		貸館共通		<ul style="list-style-type: none"> ・貸館の所管ごとに考えるのではなく、市としてどのように考えるかということ、明確化すべきだ。 ・市のホームページに貸館バナーをおき、日時、場所、人数、目的などで、簡単に検索できるようにする。また、電話などでの、予約サービスもできるようにしてほしい。 ・携わっている職員が稼働率を上げたらインセンティブを与えるなど、職員のもっている能力・知識を活かすべきだ。 ・施設予約システムを構築するときに、利害関係者として市民を参加させるべきだったと思う。今後新しいシステムを入れるときは、開発の段階から市民の代表をいれるべきだ。 ・あまりにも安く貸すのは民業圧迫につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設の特長、目的を明確にすべきである。 ・施設の強みを再確認し、「強み」をもっとアピールすべきである。 ・貸館同士の横の連携を深めるべきである。 ・ウェブサイトが見づらく、検索しにくい。また施設ごとの情報量の差が大きい。改善すべきである。